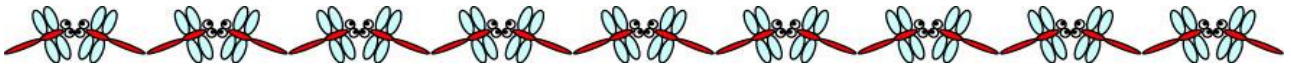


# のびゆく 中和っ子

かしこく なかよく 元気よく  
～学び合い、高め合い、ふるさとと共に歩む中和っ子～



旭市立中和小学校 令和4年9月1日 NO. 8

夏休みはどうしても短く感じるのでしょうか。42日間もあったはずなのに。毎年、こう感じる子供たちも多いのではないのでしょうか。

猛暑、熱中症警戒レベル「危険」が続いた夏休み前半。予定していた水泳指導も1回しかできませんでした。また、夏休みには、東京や都市部を中心とした新型コロナウイルス感染症の全国的な拡大も始まりました。その流れは、お盆を過ぎてから、地方へと転じ、現在旭市でもかなりの感染者数となっています。中和小学校でも、その影響が出ています。コロナ禍での学校生活は2学期以降も続いていきそうです。

保護者の皆様には、児童の健康管理や安全への注意喚起など、御配慮をいただきありがとうございました。全国各地で水の事故や交通事故、行方不明等と心配なニュースが流れる中、無事に始業式を迎えられたことは、学校としてとても嬉しいことです。2学期も職員一同、全力で頑張っていりますので、引き続き、ご支援・ご協力を宜しくお願いします。

なお、2学期から新たに中和小学校に勤務する職員、学校を去られた職員がいますので紹介します。

## 2学期からの新しい職員

2学期から中和小学校で一緒に勉強する先生方を紹介します。

3年担任 丸山 愛 先生 8月1日より、育児休業から現場復帰しました。  
支援員 水野 郁代 先生 9月2日より支援員として週3日勤務します。  
ALT アーリン 先生 干潟中在籍。6年生の外国語を担当します。

## 1学期で中和小学校を去られた職員

3年担任 玉崎 宗弘 先生 9月より銚子市立海上小学校へ。  
支援員 来栖 とし子先生 退職  
ALT エミリー 先生 6年間干潟中籍にて指導。アメリカへ帰国。



6年生は、6年間、エミリー先生と外国語の学習を続けてきました。最後の授業では、エミリー先生と記念の写真を撮ったり、プレゼントや手紙を渡したりしました。涙のお別れとなりました。



## 旭市子ども議会開催

7月26日、旭市子ども議会が開かれました。中和小学校からは、6年 菅谷 天乃さんが代表質問を行いました。質問は「海のゴミをなくすために」です。天乃さんは、家族でのごみ拾い体験をもとに、現在は、「マイクロプラスチックごみ」が増えてきている現状を述べ、海を守る大切さ、そのための取り組みの必要性を旭市へ提案しました。



海の環境を考える素晴らしい提案がなされました。

## 科学工夫工作に論文、ポスターや感想文 夏休みの力作が勢ぞろい

8月19日に予定していた「全校登校日」は、熱中症予防と新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、分散での登校としました。急な変更にも関わらず、保護者の皆様のご協力ありがとうございました。現在、その際に提出された夏休みの宿題が、ずらりと教室の廊下に並んでいます。どの作品を見ても、時間をかけてアイディアを生かし、しっかりと仕上げられています。おうちの方の支援もかなりあったかと思います。それだけに、作品も素晴らしく、親子の頑張りを感じさせるものです。

早速、「科学工夫作品」の校内審査を行い、選ばれた作品は、9月10日（土）第17回旭市児童生徒科学作品展に出品されます。10日（日）に旭市海上公民館で開かれる「市科学作品展」に出品されます。今年は、コロナ対策として、中学校区別入れ替え制の作品公開となります。 **干潟中学区 12:45 ~ 14:00**

そのほか、作文や読書感想文作品や各種図画・ポスターコンクールも、学校外の作品展へ出品します。中には、読書感想文コンクールのように、校内審査を経て、学校代表作品が出品されるものもあります。

夏休み前に取り組んだ「夏の席書会」では、全校で15名の児童が自主的に練習に取り組み、素晴らしい作品が出品されました。4年 遠藤 心絆さんの作品は、東総地区代表作品に選出され、県の中央審査にて「千葉日報賞」を受賞しました。おめでとうございます。

## 先生方も「ふるさと」を学ぶ

夏休み中、先生方も郷土の偉人「大原 幽学先生」について学ぶ研修会を実施しました。幽学先生は、中和小学校の校歌にも歌われる偉人です。4年生の社会でその功績が今も受け継がれていることを詳しく学ぶほか、2年生の生活科の町探検、5年生の国語での地域の誇りとして、常に中和小学校の学習に登場します。そこで、職員が大原幽学記念館を訪問し、幽学先生を学ぶ機会を設けました。その他にも、溝原地区にある「東栄寺」にも行き、前鎌倉時代の仏像、五百羅漢、曼荼羅図などを見せていただきました。東栄寺の裏庭には、「黒部川」の源流となる山水が流れ出す場所があり、こちらも見学しました。涸れることがないというこの水が、小見川方面へと流れ、東総広域水道企業団が取水し、私たちの飲料水となっています。



地元（ふるさと）のことを私たち教師が知ることで、子供たちの深い学びへと発展させていけると考えています。よい研修となりました。



次号は、9月15日発行予定